

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590100451		
法人名	医療法人 岡田整形外科		
事業所名	グループホームさくら		
所在地	〒880-0951 宮崎県宮崎市大塚町池ノ内1199番地		
自己評価作成日	平成26年9月6日	評価結果市町村受理日	平成26年11月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.in/45/index.php?act=ion_kouhyou_detail_2013_022_kan=truel&lievosyoCd=4590100451-00&prefCd=45&warainCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成26年9月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

複合施設である特性を活かし、多様なサービスを提供する事ができ、特性の違う介護施設利用者との交流の場を待ち、季節のイベントも盛大に行い、楽しませている。地域に開かれた施設を目指し、地域の方を招いた活動やイベントを行い、事業所を活用して頂いている。利用者様の体調の些細な変化でも医療部門に報告相談でき、日常的な受診など、医療と連携したサービスの提供を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

病院と併設しているホームということもあり、利用者の体調変化にも迅速に対応することができている。入居の際、利用者の重度化や終末期に対する説明には医師等が同席し、利用者、家族に安心感を与えている。また、モニタリング等の会議も同様に、医師はもちろん、利用者にかかわる専門の職員が参加し、共通理解できるようにしている。利用者それぞれのかかりつけ医(内科・歯科)に対しても、協力体制をしっかりとっている。行事や災害時訓練等を通して、地域とふれあう場を作り、日常から関わりを密にとることで、更に地域に根ざした運営に努めている。「なぜメモ」と名付けたメモを生かし、職員間の連携も十分にとれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中で、利用者が本人らしく暮らしていけるよう理念を掲げ、GH入口に掲示し、皆が確認できるようにしている。また、理念に沿って具体的な取り組みを年度ごとに検討し、毎月の会議で評価している。	目標達成事項に決めてからは、毎日の朝礼での唱和や月1回の定例会で、理念について、夜勤者1人を除く全員で話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、地域のバザーや地区清掃などの活動に、利用者と一緒に参加している。回覧板をもって利用者と一緒に訪問するなど、地域の方と交流している。	管理者は、ホームが地域に根ざすことを心掛けており、どの会合に出ても利用者を紹介し、とけこみやすいよう配慮している。日々の生活の中で、利用者が関わる機会を多く取り入れ、地域とのふれあいの場を設けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ふれあいサロンや防災訓練の際に利用者との交流を持つことで、認知症の方の理解を得られている。認知症サポーター養成講座の開催、心肺蘇生法などの救急勉強会なども行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の状況や取り組みの報告を行っている。また、入居者も運営推進会議に参加して頂き、交流を持つことで、サービスの実態を理解して頂けるよう努めている。会議構成員の方々には、防災やイベントについて多くの意見を頂き、サービスの向上に繋げている。	ホームの報告を行い、家族を含む会議出席者から出された意見を聞き、利用者の日常生活の支援に生かせるよう、職員全員で取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターに運営推進会議に参加して頂いたり、他事業所で合同勉強会を実施し、内容によって市の職員を招き、意見交換等を行っている。	理解しにくいことやこれからの取組等を、市役所の担当者に相談し、意見や助言をいただいている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の弊害をスタッフが理解し、取り組めるよう、勉強会を行い、やむをえない状況では入居者の家族に相談し、ケアの方針を決めている。	月1回の定例会で、ケアの体制を振り返ったり、職員全員のアンケートを取って反省につなげ、言葉遣いや行動に生かしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年度研修計画に沿って虐待防止についての勉強会を実施。また、月に一度ケアに対する振り返りを行い、日々の声掛けの仕方やケアにおいて課題を挙げ、職員同士で案を出し合い、改善に向けて取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部勉強会を実施し、また、外部研修にも参加して理解を深めるよう努めている。今後も必要に応じて活用できるようにしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行うようしているが、随時出てくる不明点、疑問点に対しては、納得いただけるよう面会時又は文書にて、回答、説明を行っている。センター長から直接話をすることもある。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を活用して、直接言いにくい事も書いて頂けるようにして意見の収集を行っている。日々の会話の中で聞かれた意見は、「なぜメモ」や申し送りノートを利用し、情報として共有している。頂いた意見に関し、部門会議等で話し合い、ケアに反映出来るよう努めている。また、行事へ家族参加を募り、意見交換の場としても活用している。	意見箱設置をしているが、なかなか意見がもらえないということもあり、家族の来訪時に、利用者の日常生活やホームの取組を直接伝えることで、意見をいただくようにしている。しかし、意見を出される方は、同じ家族に偏りがちである。	これからの取組として、定期的にホーム内での新聞づくりや家族会をつくるなど、意見の出しやすい雰囲気となるよう、今後に期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議体系の見直しを行い、部門会議など、常に管理者も出席し、直接意見交換をしている。個別面談を定期的に行い、職員の考えなどを聴く機会を設けている。また、日々の会話も大事にしている。	会議に対する部門会議を、夜勤者以外の職員が集まり、「なぜメモ」と名付けたメモを取り入れながら意見を聞く機会を設け、反映させるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ポジティブメモ、研修プログラムチェックリスト等を使用し、個々の意欲や力量を把握。定期的な面談や会議出席をして、個人の意見を取り上げ、休息の時間や会議出席の時間の調整を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年度ごとの個人の目標・チーム目標に対する評価を行い、各自のレベルアップが図れるようにしている。研修に関しても年間で計画を立て、出席できるよう勤務調整をしたり、研修費を助成金として補助するシステムを作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入し、研修等に参加している。研修で他事業所とお互いの取り組みについて話し合え、サービスの質の向上に役立っている。定期的な勉強会を行い、開催の場を事業所で持ち回り、訪問する事で交流をはかっている。また、大塚地区における介護事業所間ネットワークづくりにも参加し、地域全体でのサービス向上に活かしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に関係機関と連携し、本人の生活歴・状態を把握。また、入居後の初期段階では、スタッフは本人の言葉や表情、反応を観察し、喜びや意欲を見極めるように努め、介護計画を行い、安心して過ごせるよう取り組んでいる。利用前の本人との面談で、思い・要望を聞き出せるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前の家族との面談の中で、家族の思いやサービス導入の過程で事前に困っている事、今後の不安や要望についての聞き取りを行い、信頼関係の構築を意識し、配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の相談を受けた段階で、ケアマネジャーやそれまで生活されていた環境、利用していたサービス機関の意見を基に、今必要なサービスを見極め、他の事業所のサービス利用も含め、選択肢を提示、相談に応じている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、洗濯、居室の清掃、食事準備、後片づけなど、出来る方には行って頂き、入居者が活躍できる場面がある。日々の日課や役割を生活の一部として、意欲的に取り組まれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	サービス担当者会議を開催して、家族も参加し、要望や日頃のケアについての意見を直接聞く機会がある。また、日常的にも、面会時に日々の様子や互いに悩んでいること、気がかりな事を相談し、解決につながっている事が多くある。共に本人を支える者として、ケアについて随時、報告・相談を心がけ、関係の構築に努め、理解と協力を得ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の面会は家族の了解、理解もいただきながら受け入れている。定期的なイベントとして誕生会、思い出の場所へのドライブ等を企画し、個人でも行けるように計画を立てて実施している。また、普段も思い出せるように、利用者の思い出の写真を飾っている。	利用者となじみの方の来訪を家族に呼びかけたり、誕生会に来ていただいている。利用者の実家に職員も同行し、近隣の方とお茶を飲むなどして、なじみの方との交流支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の性格・相性・心身状態などを把握し、気を配りながら、必要な場面ではスタッフが間に入り、関係を取り持ちながら、一緒に家事や活動を行う中で、入居者同士がまじわえる環境を整えている。また、食事などの席等の環境面でも、関係が上手くいくよう配慮している。時には心身状態も配慮し、柔軟に対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	初盆のお参りや手紙を送ったり、自宅訪問を行っている。イベントボランティアとしてお世話になった家族もおられ、今後もボランティアを依頼していただいたり、ご家族のクリニック受診のついでに立ち寄って下さったり、運営推進員として継続支援を頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の言葉やスタッフの気づきを個別記録や「なぜメモ」に書き留め、本人より発信されるサインを見逃さないようにしている。特に、本人からでは表現が難しい方は、家族に意向や今までの生活歴、日々の本人の表情や行動をヒントに意見を出し合っ、本人本位に検討している。	利用者一人ひとりの要望、排泄、食事、入浴、散歩等のサインを、日々の生活の中で見逃すことのないよう、「なぜメモ」と名付けた手帳を使い、職員の意見を出し合っ、意向の把握に取り入れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、家族と関係機関の協力を得ながら情報収集に努め、グループホームでの暮らし方や支援の仕方のヒントとして役立てている。面会時にスタッフとの会話の中(近状報告、雑談)でケアが改善されたり、情報収集とコミュニケーションの重要性を、スタッフは理解している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の個別記録や観察記録を現状の把握と情報として、申し送りなどで共有を行っている。日常的なケアの気づきについてスタッフ間で話す機会を持ち、実践に活かしている。また、必要に応じて、本人の心身状態、有する力の現状は定期的にカンファレンスを実施し、専門職からの意見ももらいながら、評価している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、時には専門職からの意見ももらいながら、本人本位を前提にケアプランを作成し、毎月の話し合いの場を設け、チームとしての方針を確認している。また、状況に応じたケアプランの見直し、サービス担当者会議など、家族と話し合いを持ち、ケアプランの変更をしている。	話し合いには、利用者や家族、担当職員の他に、医師、栄養士が関わることもあり、3か月ごとのモニタリングもしっかり行っている。緊急な場合、家族に相談をし、その都度、見直しの話し合いをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や法人で活用している「なぜメモ」を活用し、日々の申し送りやスタッフ間での会話の中で、日常的にケアのヒントやケアに対する気づき等の話し合いが出来ており、実践につなげている。必要に応じて、部門会議での事例検討会を開催し、実際にチームアプローチを実施、評価している。ケアプランの見直しに活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	複合施設である事を最大限に活かし、利用者によっては、他部門の利用者と一緒に学習療法を行ったり、デイの音楽療法、体操教室に参加したり、ニーズに応じる事を前提に検討し実践している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員、地域包括支援センター職員、ボランティアの定期的な訪問がある。ふれあいサロンでは、地域の方が直接入居者と触れ合い、交流を深めていたり、防災訓練等で協力を得たりしている。地域の行事や希望に沿って、行きつけの床屋や外食に通えるように支援している。これからも本人が活用できる地域資源の把握と活用に努めていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関をかかりつけ医として希望される方が多い状況だが、入居前からの医療機関をそのまま継続し、受診される方もおられる。希望時や必要時には、他の医療機関の紹介、それに伴う情報提供や連携、受診支援を行っている。	受診支援には、医師や看護師も関わり、月2回の内科、月1回、かかりつけの歯医者に往診をお願いしている。利用者が希望している病院がある場合には、家族又は職員が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	建物一階にはクリニックがあり、毎日朝礼や終礼で日々の利用者の状態報告をし、必要に応じて適時看護師のサポート、処置を受けている。日常のケアについても気軽に相談できる環境があり、助言をいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際に、迅速かつ正確な情報提供が出来るよう情報提供書を定期的に更新しながら作成している。長期の入院を出来るだけ避けられるように、早期退院が出来るよう医療部門にも協力を得て、病院関係者とも相談し、ホームの受け入れ態勢を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に、Dr.を含めて看取りの方針について説明を行い、同意、同意書を作成している。状態変化があった時は、その都度、家族・医師・職員と話し合い、方針を決め、支援している。	入居時に、利用者、家族、職員、医師も加わり、終末期の話し合いをし、同意書を作成している。看取りを行うことも、医師を含めて、状態の変化に迅速に対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に心肺蘇生法やAED使用方法、止血方法等についての外部(消防機関)研修参加、内部勉強会で訓練を行っている。また、急変時、事故発生時の緊急時対応マニュアルを作成し、医療機関との連絡体制手順を明確化し、職員は的確に対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の地域合同訓練防災・避難訓練を実施して、地域とも協力体制を築いている。ホーム単独としても定期的な避難訓練や研修を実施している。特に認知症の方の避難を行う事を前提において課題点を検討しながら、あらゆる状況を想定して訓練を行っている。	ホーム及び法人内の他事業所と一緒に、地域も含め、火災、地震、水害等の災害時の訓練を行っている。特に、夜間訓練には力を入れている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけの仕方やスタッフの業務上のやり取りが入居者の生活環境を乱す事が無いよう配慮しているが、至らない事もある。プライバシーの勉強会やなぜメモを活用し、会議の場でも取り組みについて検討。職員同士のやり取りの際の声の大きさや表現の仕方にも注意している。	利用者一人ひとりの実情を把握するとともに、言動に配慮しながら、職員全体で研修を行ったり、個別指導をするなどし、全体で気を付けるよう心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傾聴出来る姿勢を心がけ、声掛けは利用者が選択できる声掛けの仕方を行うよう意識している。また、意思表示が困難な方に対しては、今までの本人の情報や表情、動きなどを観察し、本人が満足が得られる場面をスタッフ間で共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の生活ペースを見極め、本人に合わせたケアを心がけている。個々の日課をこなす事ではなく、本人の心身の状態に合わせ、どう過ごしたいかを柔軟に考えながら、入浴や様々な活動への参加などは事前に本人の意志を確認し、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時は一緒に衣服を選んだり、月一回の美容室の訪問カットを行っている。また、馴染みの床屋へ家族やスタッフ付き添いで行かれたりもある。特に外出時やイベント時は、身だしなみを意識して支援。希望に応じては、化粧をしたりおしゃれを楽しめる環境を提供している。家族に衣類を持って来て頂くだけでなく、本人と衣類店へ買いに行くこともある。一人ひとりの個性を理解する為に、家族からの情報も得ながら支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備や片付けなど、個々の能力に応じてスタッフが一緒に行っている。特に、片付けを率先してして下さる方もいらっしゃる。食事は本人の要望や状態に合った食事で提供するように心掛け、スタッフも一緒に食事し、ゆっくりと会話を楽しみながら食事が出来るように、環境作りに努めている。定期的に本人さんが好きだった物を食べに外食にも行っている。	小さな音量の音楽が流れる中で、利用者一人ひとりに声をかけ、会話を促しながら、笑顔で介助している。時間がかかる利用者には十分に時間をかけたり、服薬のある利用者には説明を丁寧にし、本人に寄り添いながら、穏やかな雰囲気の中、支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の下、必要な栄養バランスに配慮している。水分量、食事量、体重の記録を行いながら、必要に応じて相談し、適切な指導を受けている。時には好まれる食べ物・飲み物の差し入れ等、家族の協力も得ながら、補助食も提供したりして支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア確認や能力に応じた介助を行い、口腔内の清潔保持に努めている。訪問歯科の往診を受けて頂いており、訪問歯科から管理、個別の指導や相談も受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人個人のタイミングなどに配慮し、排泄の意思表示が困難な方にもサインを個別で把握して、トイレでの排泄を誘導している。状態に応じては、2名での付き添いや介助を行っている。可能な限りトイレで排泄が出来るように支援している。	利用者の排せつノートをつくり、その人が出すサインを読み取り、介助を行っている。オムツのみの介助にならないよう、トイレでの排せつ介助支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事については、管理栄養士の協力を得て、摂取能力や既往歴、現在の病状を考慮し、対応している。投薬については、必要最低限に対処できるよう、随時医師とも相談している。運動が出来る方は散歩や体操など、体を動かせる環境にも努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の希望に沿った入浴の実施を行っている。本人のタイミングや声掛け、誘導の仕方など、十分気を配り、浴室でゆっくり話をしながら入浴を楽しんでいただけるようしている。状況に応じては、Dr. やNs. の指導、協力を得て入浴したり、定期的に温泉へ出かけるなどの企画を実施している。	浴槽に浸かれない利用者に対しては、シャワーいすを使い、身体への負担のないよう介助している。また、ゆったりとした気持ちで入浴できるよう、笑顔で声をかけながら、支援をしている。時々、地域の温泉施設に行くこともあり、それを楽しみにされている方もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活習慣や状態、希望に合わせて休んでいただいている。気持ちのいい環境で休んでいただくために、定期的な寝具清掃や洗濯に努めている。職員・家族の気づきを出し合い、寝床の工夫等をして個別に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用中の薬は一枚の用紙にまとめ、掲示、管理しており、職員は服薬支援のたびに確認できるようになっている。また、薬情は個々の台帳に綴じており、薬の変更があった場合は医療スタッフより十分な説明を受け、症状の変化は随時報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各々の能力に応じてホーム内での掃除、洗濯などを中心に、役割として意欲的に担っていただいている。余暇においては、センター全体でそうめん流しやビアパーティーなど季節感のある行事を企画し、誕生会や音楽療法なども提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	テラスや玄関前のスペースを活用した外気浴や近隣散歩、外食、買い物、散髪など、随時、本人が希望したり、提案をして、要望に応じている。個別の外出も出来ており、温泉、墓参り、自宅帰宅などに取り組んでいる。	近隣の散歩や個別の外出支援にも対応している。どうしても外に行きたい利用者がある時には、車でホームの周りを一周しながら景色を見せて落ち着くようにしたり、買い物に同行するなどの外出支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常的に使うお金は事務担当で預かっているが、いつでも使用できるようになっており、外出時などに必要なお金を持ち、買い物を楽しまれる。日頃お金を所持していない事を不安がられる利用者についても家族と話し合い、必要に応じてお金を所持して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に合わせて、いつでも電話は使用でき、必要に応じてダイヤルの代行などを行っている。お正月には年賀状を書いて頂き、書けない方には代筆や簡単なイラストを描けるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング玄関には花を飾り、季節感を意識したレイアウトをしたり、懐かしい音楽をゆっくり聞いたりして、居心地の良い環境作りに心がけている。掲示板や廊下等には、利用者の若かりし頃の写真を飾り、行き来するたびに会話のきっかけ作りにも役立っている。	利用者と一緒に、季節に合わせた飾り(生け花や壁面等)を製作したり、音楽を流したりしながら、利用者にとって居心地の良い雰囲気や環境作りに配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには2人掛け、3人掛けのソファがあり、思い思いの場所で過ごされている。テーブルの配置等、レイアウトを変える事で、いつもと違う雰囲気を楽しまれる事もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全ての利用者に、使い慣れた家具等を持ち込んでいただき、使用してもらっている。本人・家族と相談し、配置を決め、家族の写真なども飾っていただいている。	利用者や家族に話を聞きながら、その人が使いやすいような配置をしたり、なじみのある家具や家族の写真を設置することで、安心して生活できる空間作りとなるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	風呂場・トイレの手すりは認識しやすい色を採用している。備品についても、位置や安全面に配慮し、自立に向けた支援を行っている。		